



左の写真は、正面玄関横の掲示です。じめじめとした季節が続いていますが、草花が成長しているように、素直なあくのうらっ子たちも、たくさんのお水を吸収して、ますます成長してきたことを感じる今日この頃です。6月は、子どもたちにとっても、「いのちのおかあさん」がたくさんふってきたようです。いよいよ7月に入ります。学校は、これから1学期のまとめを行っていきます。

【教育週間終了】

6月18日(日)～24日(土)は、あくのうらっ子の心を見つける教育週間でした。学校では、子どもたちに「命の大切さ」「人を思いやることの大切さ」について、たくさん考えてもらいました。19日(月)の全校集会(校長講話)では、右の写真のように、命を大切にするために、「命を輝かせて生きる」ことについて考えるよう話をしました。子どもたち一人一人が自分に合った命の輝かせ方を見つけていってほしいと思います。

24日(土)の道徳科授業参観では、それぞれの担任と一緒にさらに「命の大切さ」について学びを深めることができました。お忙しい中、多数のご参観ありがとうございました。今後、ご家庭の方でもさらにお子様の考えが深まっていくようご支援ください。

授業参観後の懇談会の時間には、西公民館で活動されている「にじうお」の皆様、読み聞かせの会を開いていただき、子どもたちは本の世界を楽しむことができました。また、終了後には、地域の皆様にもご協力をいただき、コロナでできていなかった強調月間パトロールを再開することができました。自分たちの安心・安全を守るために、多くの大人たちが協力してくれていることを子どもたちも感じる取ることができたと思います。本当にありがとうございました。

【被爆体験講話】

23日(金)は、講師に八木道子先生をお招きし、被爆体験講話を実施しました。八木先生は、小学1年生の頃に、爆心地から3.3kmの鳴滝町で被爆されたそうです。一瞬にして聞こえなくなったセミの声、異様な空の色、やけどを負った身体に湧く無数のうじ虫と異臭は、今でもはっきりと記憶にあるそうです。「戦争は最大の差別」であり、その戦争を起こすのは人間、止めるのも人間ということで、戦争の恐ろしさ、原子爆弾の恐ろしさ、平和の大切さを訴え続けていらっしゃいます。しかし、戦後78年。その恐ろしさを伝えていく人がいなくなっていくことを心配されています。子どもたちに平和のバトンを渡しに来られたそうです。子どもたちは、八木先生のお話にしっかりと耳を傾け、平和の大切さについて深く考えることができました。



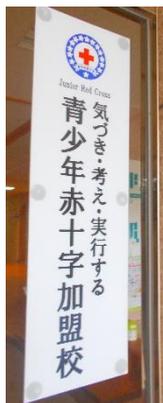
八木先生へ

今日は、来てくださり本当にありがとうございました。おかげで、平和の大切さや原爆の恐ろしさがよく分かりました。私は、何があっても、戦争はしてはいけないと思いました。私が一番怖かったのは、熱線で被害にあった写真です。今は、ウクライナとロシアが戦争をしているニュースを見ると、いつも「戦争は卑怯だ」と思います。私は、以前「平和の泉」で歌ったことがあります。そのときの平和の泉はとても清らかな水が流れていて、ライトアップもきれいでした。でも、原爆が長崎に投下されて、一瞬にして人でうまった平和の泉を思い浮かべてみると、やっぱり戦争は怖いものだし、あってはならないものだと思います。私は、日本が最初戦争をやらなかったら、このようなことにはなっていなかったことにとっても腹が立ちました。罪のない人も一瞬にしてたくさん殺してしまうことにとっても腹が立ちました。罪のない人も巻き込んでいるということが本当に悲しいということが分かりました。これからは、必ず次の世代へと平和のバトンをつないでいきたいです。(6年MS)

【7月の行事予定】

- 3日(月) 安全の日
 4日(火) 3・4年水泳学習 4年環境学習
 5日(水) 6年太鼓指導 1・2年水泳学習 心の時間
 6日(木) 集団下校
 7日(金) 1・2年水泳学習 2・3年校内研究授業
 10日(月) 午前中5時間授業(給食後下校) ピースデー
 3・4年水泳学習 個人面談
 11日(火) 午前中5時間授業(給食後下校) 5・6年水泳学習 個人面談
 12日(水) 午前中5時間授業(給食後下校) 個人面談
 13日(木) 午前中5時間授業(給食後下校) 5・6年水泳学習(着衣泳) 個人面談
 14日(金) 3年校外学習(ケアハウス稲佐の森)
 19日(水) 6年太鼓指導
 20日(木) 第1学期終業式 集団下校
 21日(金) 夏休み(～8月31日)
 ※ 8月 9日(水) 全校登校日 平和祈念集会
 ※ 8月21日(月) 児童様子確認日(クロムブック meet)
 ※ 9月 1日(金) 第2学期始業式

【青少年赤十字(JRC)の加盟校に登録をしました】



加盟校となることで、日赤の方に来ていただき、救急救命法講習を無料で受けることができました。5・6年生の着衣泳の講師としても来ていただく予定です。

青少年赤十字は、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人びととの友好親善の精神を育成することを目的として、さまざまな活動を学校教育の中で展開しています。

青少年赤十字では、先に述べた目的を達成するために、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の3つの実践目標を掲げています。また、主体性を育てるために「気づき」「考え」「実行する」という態度目標を掲げています。

今後、本校教育活動にも盛り込んでいきたいと思えます。

《校長室の窓から》

昔から、子育て(教育)には、アメとムチ、つまり「褒める」と「叱る」ことの両方が必要だとよく言われます。「褒めて、叱って、また褒める」「1叱って、4褒める」「10褒めて、1叱る」・・・などと言われる割合や順番はいろいろですが、大切なことは、たくさん「褒める」ことです。子どもの自己肯定感を絶対に奪ってしまってははいけません。

そして、もう一つ大切なことは、「怒る」のではなく「叱る」ということです。「怒る」と「叱る」は違います。「怒る」は、よくありません。その違いは、次のような感じでしょうか。

怒る	叱る
① 感情的に	① 理性的に
② 自分のために	② 相手のために
③ 過去に焦点をあてて	③ 未来を見据えて
④ 怒りと勢いで	④ 愛と勇気で
⑤ 自分の言いたいように	⑤ 相手に伝わるように
⑥ 感情に任せて	⑥ 試行錯誤しながら
⑦ 相手を否定するように	⑦ 相手を認めながら

これからも、あくのうらっ子の周りいる私たちすべての大人が、みんなで手を取り合い、子どもたち一人一人の未来を見据えて、愛情たっぷりに、上手に褒めながら、上手に叱りながら、子どもたちを教育していきたいものです。